

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2014年版、名古屋建築 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)
 物環境配慮制度適用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンスジェネ千代田	階数	地上14F
建設地	愛知県名古屋市中区千代田三丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地域	平均居住人員	146 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2017年7月 予定	評価の実施日	2015年10月23日
敷地面積	618 m ²	作成者	
建築面積	354 m ²	確認日	2015年10月23日
延床面積	3,851 m ²	確認者	

外観/パース等
 図を貼り付けるときは
 シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE0.5 ★★★★★</p> <p>☆:S:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B:★★ C</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 108% ③上記+②以外の 108% ④上記+ 108%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Q のスコア = 2.6</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 1.9</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 1.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア=2.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 ・居住者の住まいやすさや意匠的な満足を得られるものを求めつつ、法令順守を原則に設計をすすめている。</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・建築基準法対象外となる建築材料をほぼ全面的に採用し、室内環境に対する懸念を減らすよう配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・近年の一般的な設備仕様を満たされるよう配慮して設備性能を決定している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・特別な周囲環境への配慮は起こっていないが、意匠計画において特別浮いた存在にならないように意匠決定を行った。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・特別な配慮は起こっていないが品確法における等級3相当程度の断熱処理をおこなう。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・特別な配慮は起こっていないが最低限法順守にしたがうようにしている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・特別な配慮は起こっていないが最低限法順守にしたがうようにしている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される